



加盟国の特徴



～水銀に関する水俣条約グループ～

「環境首都水俣」に学ぶ水高生から世界への『いのちの発信』

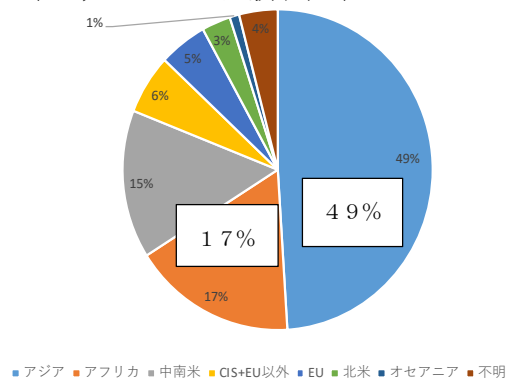
2年生
3名

仮説

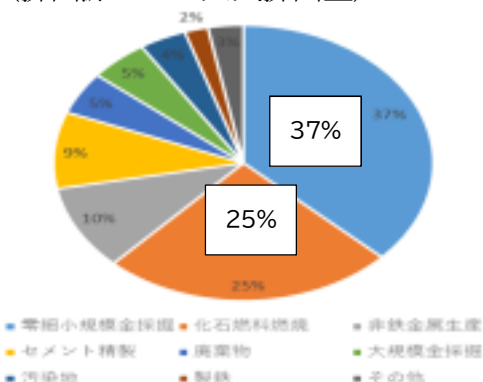
- 水銀に関する問題を抱えた国が加盟しているのではないかな？
- アフリカや中東に排出や消費が偏っているのではないかな？

調査結果

(地域ごとの大気排出量)



(排出源ごとの大気排出量)



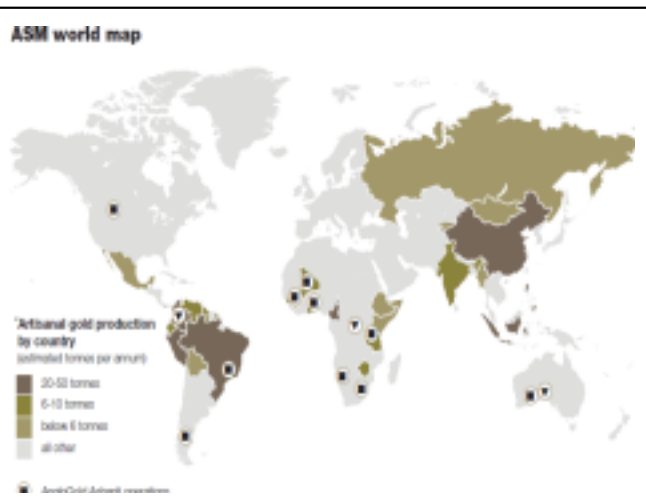
- ダントツで東・東南アジアが多い
- 格差がある
- 大気排出量はアジアが半分近くを占めている
- 大気への排出源の4割を小規模金採掘が占めている

問題点

- アジア、特に中国に水銀排出量が偏っている。
- 大気排出量の要因のほとんどを占めている金採掘では働く人に被害がある。

解決策

- 具体的に、水銀の排出量が多い国にいつまでにどのくらい水銀の排出量を減らすか決めさせる。



結論

- 解説で立てた加盟国の多くが水銀の影響を受けているのではなく、一部の国や地域が汚染のほとんどを占めていた。
- アフリカや中東ではなく、アジアに消費や排出が偏っていた。

展望

- 水銀による健康被害が起こらない世界
- 水銀が使用されている製品を減らす。
- 小規模金採掘によって排出される水銀で採掘に加わっている労働者の水銀による被害を無くす。
- 水銀の危険性及び及ぼす健康被害を水俣病の教訓をもとに伝えていく。調査の結果、現在でも水銀の大気排出の排出源の1位は小規模金採掘で37%を占める。これは、直接的に人体に影響を及ぼし、水俣病のように人々を苦しめ、命を落とすケースもある。少しでも早く、多く、水銀をつくり出さない世界のために私たちの知っていることを、いのちの発信として水俣病の教訓をこの条約を通して広めたい。

参考文献：Global Mercury Assessment (UNEP 2013)